



1月号

「ジャンケンポン」
 校庭に広がる子どもたちの声
 きょうは児童集会
 イモムシゲームのはじまりだ

列がどんどん長くなる
 六年生だって
 まければ一年生の後ろだ
 「勝った。パンザイ」
 大よろこびの一年生

あれこれ考え 工夫をこらし
 すすめていく役員さんたち
 高く青い空 冷たい土の上
 そして たくましく育つ

矢南の子

昭和57年1月1日
 編集／発行
 岡崎市教育委員会

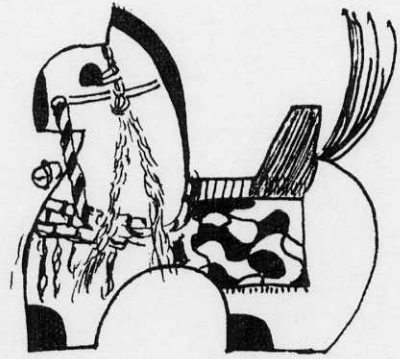


(イモムシゲーム-矢作南小)

—教育随想—

信念の人

野崎 恵史



長い記者生活で人の生き方を教えられた人口数多く出会ったが、名工大の〇教授ほど自らの信念に殉じ、苛烈な人生を生き抜いた人を知らない。ハチの一刺しで社会正義が物議をかもしているが、命を賭して正義を守ろうとしたその生きざまに改めて感動を覚えるのである。

〇教授を知ったのは四十三年暮れのことだ。名工大で不正入試問題が起った。十数年前から入試問題が漏れていると書かれたビラがまかれたのが発端だった。学内は騒然となり、学生たちは真相究明を求めて、ストや団交を繰り返した。大学側は査問委員会をつくって、真相の解明にのり出したが、この委員長に選ばれたのが〇教授であった。〇教授は土木工学の権威で学生への厳格な指導で知られていた。大学はこの厳しさに期待したのだらう。〇教授はこの期待にこたえて、精力的な調査を展開した。

この結果、落ちこぼれ高校生が満点に

近い成績で合格、入学後、ついていけない不正を告白して退学した——などの事実が次々明らかにされ、疑惑の教官が二人浮かんだ。ただ、状況証拠にすぎず、物証はなかったが、これは限界であった。

「真相」が解明された以上、大学の姿勢が問われた。大学の自治の建て前上、国立大学の教職員の身分は法律で守られ教授会の上申がないと処分はできない。処分を決める注目の教授会が開かれた。

疑惑をもたれた以上、教官として不適格だと分限免職を求めた大学の提案は四分の三以上の賛成が得られず、疑惑の二人には何の処分もなされなかった。

〇教授は悲憤慷慨した。査問委員会を開いて、さらに調査した。過労で網膜はく離で入院、医師から絶対安静を命ぜられたが、ベッドで資料に目を通し、ついに片目を失った。

この調査で新しい疑惑が出たが、大学では二度と処分を求めることはなかった。

「疑惑の教官と一緒に学生を教えることはできない」と定年まで五年も残して大学を去ったのはそれから間もなくのことであった。大学は〇教授の長年の研究と教育に名誉教授の称号を贈ろうとしたが、断固拒否された。

〇教授は大学を去っても二人が許せなかった。社会的に葬れないかと考えた。

マスコミ各社は事件発生後、遂一、報道したが、疑惑の教官はとも仮名だった。「疑惑者」にも人権があり、状況証拠であることが配慮されたのである。〇教授はなんとか名前を発表するよう働きかけたが、どの社も踏み切れなかった。

〇教授はそれでもあきらめなかった。本にして出版、社会に訴えようとした。が、ここにもカベはあった。退職後も知り得た秘密をもらすことを禁じた法律があり、結局、固有名詞は出せなかった。

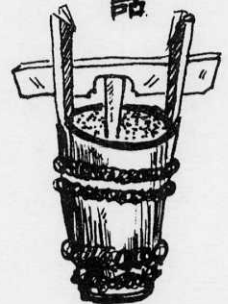
執筆を始めたとき、胃ガンに冒されていた。点滴を受けながら、痛をおして綴った、その本が出版されたのは、亡くなる五日前、五十年十月のことだった。

医師は執筆が命を縮めた、といったが、遺族は本が間に合ったことに感謝した。

死亡の知らせを受け、かけつけたとき〇教授は一つだけ残った目をカッと開いて天をにらみ、両手で何かをつかむようにしていた。「オレは死んでも調べてやる」といったげな壮烈な死であった。枕元には命を削って書いた本があった。

〇教授——岡林稔教授のことである。
(中日新聞岡崎支局長)

海外ごぼれ話



珍道中

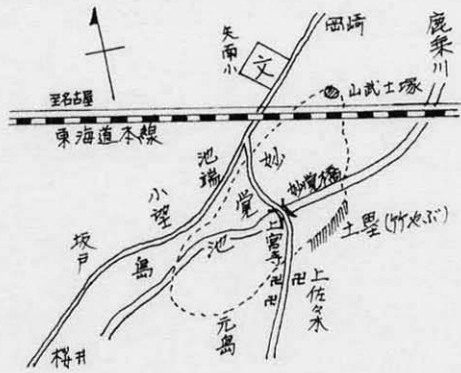
大須賀紀子

「おい、つるだ、つるだ、早く探せ。」
ジェスチャーで汗を流しているY先生。
けんめいに辞書を引くS先生。

これは、カナダ、カルガリー市立アシニボン小学校のコーヒータイトムでのコマ。全職員が集まり歓談中、N先生が鶴を折ったが、さて、この鶴を何と説明してよいかとまどい汗だくの場面である。そのうち、「ハングだ、ハングだ」とS先生が辞書をさす。さっそく首を長くし、両手を広げて「ハング・バード」とやったN先生の顔を見て、回りの先生方が啞然としている。我々には、その理由が即座にはわからなかった。しかし、よくよく辞書を見ると、ハングとは「鶴」ならず「吊る」だったわけ。

赤い千代紙で折ったかわいらしい鶴をじつと見ていたアシニボン小学校の校長先生いわく。「オノフラミンゴ。」この場はフラミンゴでおさまった。

言葉の不自由な我々は毎日の如く似通った失敗をして大笑い。何度笑いこぼ

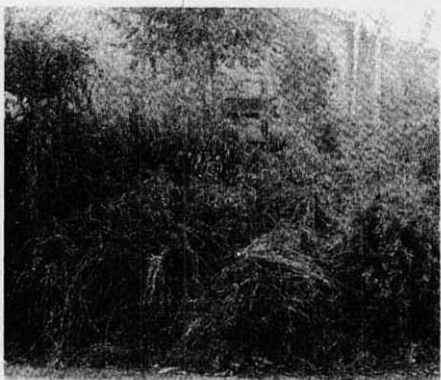


— ふるさとの山河 —

妙覚池

妙覚池。あまり聞きなれないことばであるが、今の牧内町から島坂町にかけて広がっていた薩摩芋の形をした池のことである。この池には大蛇が住みつき人々から崇められ且つまた恐れられていた。明治の初年ごろまでに池はほとんどなくなり、最後まで残っていた葦原(五、六a)も大正八年に開きなされ農地となり現在その由来を残すものは、山武士塚(写真)と土塁の一部が有るにすぎない。しかし東島、西島、池端、元島、小望などの地名は残され、近年になって鹿乗川には妙覚橋もかけられた。

ところが戦乱の世に入ると僧の中にも自分の地位・名譽を得ようとする者が現われ血なまぐさい軍が絶えなかった。この乱れた世をはかなんで十二坊の中の一僧侶が山武士となって修業をし、この世を良くしようと百日の願かけを行った。(上宮寺八代目住職源智聖人の時代) ところがこの願かけが成就する満願の日に、世をはかなんで「妙覚池」に飛び込み人としての命を絶ち大蛇となってこの池に住みついたのである。(これが山武士塚である) 当時十二坊の寺は非常に貧しく、それぞれ「米屋」をしたり「酒屋」をしたり「刀とぎ」をしたり、さまざま商をしながら生計をたてていた。しかし寺であるが故に大勢の人々が仏門をたたいてはおとずれた。何とかその人たちをもてなそうとするが貧乏寺であるが為にもてなせず思案の末「妙覚池」の大蛇に頼んで



(矢北小 小河秋羅)

はお膳やお椀までも借りていた。ある日一組のお膳とお椀を返すのを忘れたためそれ以来一斉貸してもらえなかったという。近年までそのお膳もお椀も残っていたというが現在は所在がはっきりしない。時代は流れ、上宮寺三十代目住職「如光聖人」が大蛇を非常にあわれに思われ毎日池のほとりに立つては仏法の話をお教化されたのである。最後に親指大の小石六つに「南・無・阿・弥・陀・仏」の六文字を書き池に投げ入れたところ大蛇は昇天し仏になることができた。以後「妙覚池」には大蛇は住まなくなったという。この六文字のうち「阿」の小石は近年田の中から発見され上宮寺に保管され、虫ぼしの時には拝観することができ。山武士塚も矢作農協牧内支所内に現存し同町の某氏により年一回清掃もされ大切に保存されているが傷みはひどい。

地中海の島マヨルカでは、アントニオと知りあい、旅で一番印象深い地となった。アントニオは若い頃、自分の運転する車で事故を起こし、一度に妻と子供二人を亡くした。自分はだけがしたものの、ただ一人生き残った。彼は六十才になる老人である。倉庫を利用した貧相な家だが、部屋には母親や、家族の写真が額に入れて飾ってある。今の彼の友達と言えばカナリヤと、シェパードほどもある大きな雑種犬である。海岸でタバコの火を借したので出合いのはじまりで、なぜか気があいBARにコーヒを飲みに行つた。昔は船乗りだったせいか、スペイン語は勿論、英語、フランス語が話せるのである。しかし驚いたことに、字が書けないのである。こんな人々のなんと多かつたことか、写真を撮つてあげた二十ぐらゐの若者も、自分の住所が書けなかつたのである。言葉のへだたりも何のその、不思議と言いたいことは理解できた。帰りにママにおみやげだと言つてプレスレットまでもらい、別れを告げた。

(岩津中)

マヨルカ島の思い出

中島 純一

たことか。しかし、優しさや暖さで迎えてくれたカナダの人々を私は忘れない。心に感じるものが山ほどあつたから。(秦梨小)

滝山東照宮

三十六歌仙懸額

正保二年十二月十七日

狩野法眼元信筆



拝殿右側懸額

- 一人 丸 ほんくくと明石の浦の朝霧に島かくれ行く舟をしぞおもふ
- 二 射 恒 いつくとも春のひかりはわかなくにまだみよしの、山は雪ふる
- 三 中納言兼持 春の野にあさるきさすの妻恋ておのが有かを人にしれ簡
- 四 業平朝臣 世の中にたえてさくらなかりせばはるのこ、ろはのどけからまし
- 五 素性法師 見わたせば柳さくらをこきまぜてみやこそはるのにしきなりける
- 六 猿丸大夫 おく山に紅葉ふみ分けなく鹿の聲きく時ぞあきはかなしき
- 七 中納言兼輔 ひとのおやのこ、ろはやみにあらねども子を思ふみちにまどひぬる哉
- 八 中納言敦忠 あひみての後の心にくらおればむかしはものをおもはざりけり
- 九 公忠朝臣 ゆきやらで山路くらしつ郭公今一聲のきかまほしきに
- 十 齋宮女御 このねに峯の松風かよふらしいつれの緒よりしらべそめけむ
- 十一 敏行朝臣 秋きぬとめにはさやかにみえねども風の音にぞおどろかれぬる
- 十二 宗千朝臣 ときはなる松のみとりも春くればいましほの色まさりけり
- 十三 清 正 天つかぜふけるうらにあるたづのなとか雲居にかへらざるべき
- 十四 興 風 ちぎりけむこ、ろぞつらきたなばたのとしに一度あふは逢かは
- 十五 是 則 みよし野の山のしら雪つもるらしむるさとさむくなりまさるなり
- 十六 三條院女藏人左近 岩橋のよるの契もたえぬべしあくるわびしき葛城の神
- 十七 能宜朝臣 ちとせまでかぎれる松も今日よりは君にひかれてよろづよやへむ
- 十八 兼 盛 くれてゆく秋のかたみにおく物はわがもとゆひの霜にそ有ける



滝山東照宮は徳川三代將軍家光の創建であり、日光及び久能山と並ぶ日本三大東照宮の一つである。彩色あざやかな拝殿の中に狩野探幽筆（一六四五年）による三十六歌仙の懸額がある。
鎌倉時代以降、三十六歌仙の肖像画に代表的な詠歌を一首書きそえてならべた絵巻や懸額が盛んにつくられるようになった。

滝山東照宮の懸額もその一つである。三十六歌仙は、平安時代中期の歌学者藤原公任が「三十六人撰」の中に柿本人麻呂・紀貫之・大伴家持・山部赤人・在原業平など三十六人のすぐれた歌人を選んだことにはじまる。その後も、後六六撰や中古三十六歌仙などこれにならったものが多く登場する。

懸額 側左 殿拝

一貫之	さくらちる木の下かせは寒からで空に志られぬ雪そふりける
二伊勢	みわの山いかにまらみむ年ふともたづぬる人もあらじと思へば
三赤人	和歌の浦に塩未地くれば架多越なみ芦べをさして多津啼渡る
四僧正遍昭	たらちねはか・れとてしも鳥羽玉のわが黒髪はなくすや有けむ
五友則	秋かせにはつかりかねぞきこゆなるたがたまづさをかけてきぬらむ
六小野小町	色みえてうつろふ物は世中の人の心の花にぞ有ける
七中納言朝忠	あふことのたえてしなくば中く人に人もうらみざりまし
八高光	かく許へがたくみゆる世中にうらやましくもすめる月かな
九忠峯	辰明のつれなくみえし別り曉ばかりうき物はなし
十頼基朝臣	一ふしに千代をこめたる杖なればつくともつききみがよはひは
十一重之	かせをいたみ岩うつ波のをのれのみくだけて物を思ふころかな
十二信明朝臣	あたら夜の月とはなとおおなくばあはれしれらむひとにみせばや
十三順	水のおもにてる月なみをかせふればこよひぞ秋の最中なりける
十四元輔	をとなしの河とそついにながれいづるいはて物おもふ袖の涙は
十五元真	夏草は茂りにけりな玉鉾のみちゆきびともむすぶばかりに
十六伸文	有暎の月の光をまつ程にわがよのいたく更にける哉
十七忠見	恋すてふ我名はまだき立にける人しれずこそ思ひそめしが
十八中務	秋風のふくにつけてもとはぬかなおきののならば音はしてまじ

子ども いまもむかしも

南中 木村 仁子

ガチャーン……、ちよつと
 ばけていた私が、持ってきた教
 具をばらまいてしまったのだ。
 音がするやいなや、四十五人が
 一斉に席を立ててあちこちに散
 らばった釘を拾い始めた。その
 前日に、

「今の子は、人に対する思いや
 りなんてないね。教師がチョー
 クの箱を落としても、誰も手伝
 ってなどくれないんだもの」な
 どという話を聞いたばかりの私
 にとつて、この上なくうれし
 い出来事であった。ああ、我が教
 え子はさにあらずやと。

私が子どもたちを叱る原因は
 一、自分に嘘をつくこと。
 一、他人に思いやりのない行動
 をとること。

勉強のことを心配する御父兄
 の方もいらつしやつたが、最近
 は苦情どころか協力して下さる
 方が多くなっている。

最近、教師の口から、

「今の子どもは、いくらやっ
 ても……」などということばが
 よくもれる。そんなことばを聞
 く度に私は首を振りたくなる。



どんなに悪ぶっている子でも、
 人の子。裏切られても裏切られ
 ても子どもを信じてやりたい。
 中二ともなると、二回も三回も
 時には何十回も裏切られる。そ
 れでもなお、信じたい。

子どもたちにとつて、今もつ
 とも必要なこと何だろ。私
 は常に考える。しかし、答は
 いつも同じ、思いやりの大切さ
 を教えてやるべきだと。

嫌われることを知りながら、
 友のことを思い、必死で注意す
 る女の子。寒さに震える仲間
 に学生服を山のように着せかけ
 る男の子。わがクラスに同情はな
 い。同情はないけれど思いやり
 がある。彼らは着実に前進して
 いる。見ている私が驚くほどに。

苦しい時、悲しい時、彼らは
 自らと戦う、不撓不屈の精神を
 胸に。そして、私の口癖、

ほんとうに強い人間とは、
 自分自身の弱さと戦い続ける
 ことのできる人間だ。

ということ、自らに言い聞か
 せながら。彼らは真の強さを身
 につけ、真の思いやりをかけら
 れる人間に育ちつつある。あり
 がとう四十五人の仲間たち。

教育日々



割れたプレート

竜美丘小 稲垣 幸一

ある土曜日の一斉下校終了後
 の出来事である。

「あつ、割られているノ、ゴミ
 箱もベコベコだ……」
 子供達の顔は一瞬青ざめ、次の
 言葉が出てこない。彼らが一生
 懸命作ったプレートがはじめに
 も割られ、破片が散らばり、す
 ぐ下に置かれているゴミ箱もい

たるところがへこんでいる。思
 つてもみなかった光景である。

本校児童会は、毎週土曜日に
 「野鳥の森」の清掃活動を続け
 ているが、ゴミや空カンが既設
 のゴミ箱からあふれるようにな
 ったため、特製ゴミ箱十八個を
 設置、同時に「公園美化」を呼
 びかけるプレートも近くの木の
 幹に取りつけた。

子供達は、自らのボランティア
 ア活動で、「野鳥の森」が生き
 返ることを決して疑わなかった
 のに。その結果は誰もが予想し
 得なかった無残なものとなった。
 この活動を計画の段階から見守
 ってきた私には、子供達の気持
 ちは察するにあまりあるものが
 あった。良かれと思つて始めた
 ボランティア活動が完全に打ち
 のめされたのである。

私は、散らばっていたプレ
 ートの破片を拾いながら、
 「こうした人達に、もう一度み
 んなの「野鳥の森」を愛する気
 持ちを伝えるんだ。割られても
 割られても何度でもつけかえれ
 ばいい。今度はプレート以上に
 強く訴えるものも一語に……」
 さらに、日頃から、児童会活動
 は千人の仲間と汗を流しながら
 行つてこそ意義があることを機
 会をとらえては指導してきたが、



それも今一度確認した。

こうして、二カ月後、彼らは
 全校に廃品回収を呼びかけ、野
 鳥の森展望台に時計を設置する
 ところまでこぎつけた。

思いがけない出来事が、児童
 会活動とボランティア精神をま
 た一段と高揚させたことになつ
 た。ある意味で、敷かれたレ
 ールの上を進んでいた児童会活動
 ではあったが、この事件をきつ
 かけに、彼らは自らの活躍のレ
 ールを敷くことのできるまでに
 大きく成長したのだ。
 その時計設置以後、いたずら
 はびたりと止んだ。寒風吹きす
 さぶ今日も冷たくなった手をこ
 すりながら、清掃活動をしてい
 る子供達の姿は美しい。



おしらせ

二年連続入選

全国自作視聴覚教材コンクール

視聴覚自作委員会と社会科部の合同作品「とうろうづくり」(ビデオ・十二分)が全国入選した。この作品は、伝統産業を扱う五年生の社会科教材として昨年製作されたものである。表彰式は去る十二月十九日東京国立教育会館で行われた。

甲山中学校で行われるアナライザ―授業研究会の席上行われる予定である。

全国学芸コンクール、研究論文の部で第一席

旺文社が主催する第二十五回全国学芸コンクールの研究論文の部で杉坂美典教諭(六中小)は第一席に選ばれた。

論題は「愛知県及びその周辺に生息するゴマシジミの地理的変異についての一考察」で、長年の研究をまとめたものである。

県知事賞に大門小

国際障害者年記念作文

「私の母」六年、市橋朋子

○愛知県農業協同組合中央会募集作文

「おじいさんのごはん」

表彰式は来る一月二十二日、

- ◆「寄贈刊行物・資料等」
- ◆冷奴 河口信一郎
- ◆君たちに栄光あり―小さな戦士たち―竜中 大久保慎一
- ◆ゆとりの時間を生かした「とさわの学習」 常磐中学校
- ◆算数指導の疑問これですつきり 算数数学教育研究部

昭和56年度秋季小中学校各種競技記録

第14回岡崎中学校新人総合体育大会成績

10月18・25日

種目	性	1位			2位			3位		
		氏名	校名	記録	氏名	校名	記録	氏名	校名	記録
軟式野球	男	葵	美川	福岡	矢作	美川	福岡	美川	福岡	福岡
	女	城北	岩津	美川	矢作	美川	福岡	美川	福岡	福岡
ソフトボール	男	六ツ美	美川	葵	城北	六ツ美	甲山	葵	城北	葵
	女	六ツ美	葵	美川	岩津	六ツ美	甲山	葵	城北	葵
ハンドボール	男	矢作	城北	六ツ美	甲山	矢作	城北	六ツ美	甲山	葵
	女	福岡	美川	葵	矢作	城北	六ツ美	甲山	葵	城北
軟式庭球	男	南	附属	甲山	東海	南	附属	甲山	東海	東海
	女	東海	河合	香山	岩津	東海	河合	香山	岩津	岩津
卓球	男	城北	葵	矢作	福岡	城北	葵	矢作	福岡	福岡
	女	東海	福岡	甲山	岩津	東海	福岡	甲山	岩津	岩津
剣道	男	城北	葵	矢作	福岡	城北	葵	矢作	福岡	福岡
	女	東海	福岡	甲山	岩津	東海	福岡	甲山	岩津	岩津
バレーボール	男	竜海	矢作	美川	矢作	竜海	南	矢作	美川	矢作
	女	六ツ美	竜海	南	矢作	六ツ美	美川	美川	美川	美川
バスケットボール	男	美川	六ツ美	葵	岩津	美川	六ツ美	葵	岩津	岩津
	女	美川	竜海	東海	城北	美川	竜海	東海	城北	城北
体操競技	男	竜海	甲山	東海	美川	竜海	南	美川	竜海	南
	女	美川	竜海	南	美川	竜海	南	美川	竜海	南
柔道	男	美川	竜海	南	美川	竜海	南	美川	竜海	南
	女	美川	葵	南	美川	葵	南	美川	葵	南
陸上競技	男	美川	葵	南	美川	葵	南	美川	葵	南
	女	矢作	葵	岩津	矢作	葵	岩津	矢作	葵	岩津
サッカー	男	附属	南	附属	南	附属	南	附属	南	南

陸上競技個人記録

中学校

種目	男子			種目	女子		
	氏名	校名	記録		氏名	校名	記録
100M	中村 吉男	城北	11"8	100m	佐野 順子	岩津	12"7新
200M				200m	山田 朋子	福岡	27"8新
400M	杉浦 宏幸	美川	56"9	400m			
800M	安藤 孝司	甲山	2'20"7	800m	原田 奈己	南	2'32"6
1500M	犬塚 崇志	美川	4'45"8	1500m			
3000M	天野 真	岩津	10'05"3	3000m			
100MH	曾我 義朋	葵	14"5	100MH	鈴木千恵子	矢作	16"8
走幅跳	杉浦 宏幸	美川	6 m 24新	走幅跳	近藤 智子	葵	4 m 87新
走高跳	高橋 潤	葵	1 m 70	走高跳	松下 恭子	矢作	1 m 40
棒高跳	富田 恵男	東海	3 m	棒高跳			
砲丸投	岡部 勝宏	東海	12m 52	砲丸投	野村 志保	矢作北	9 m 91
800MR		葵	1'41"1	800MR			
400MR				400MR	葵 岩津 福岡		53"2新 53"3 54"1

陸上競技個人記録

小学校

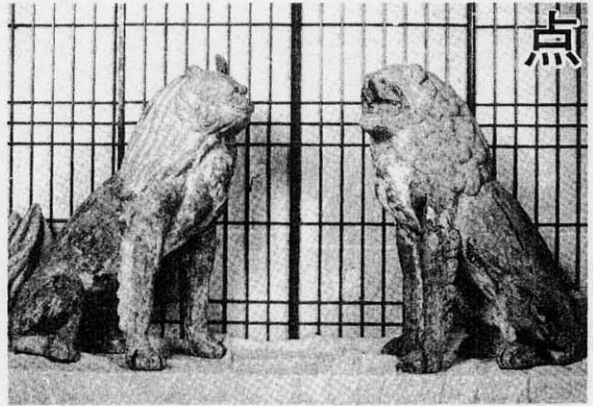
種目	男子			種目	女子		
	氏名	校名	記録		氏名	校名	記録
100M	木村 毅	美合	13"4	100m	近藤 直美	連尺	14"2
1000M	神谷 栄樹	矢北	3'11"3				
60MH	玉腰 泰昌	梅園	9"4	60m	谷山 和美	梅園	9"7
400MR		連尺	54"7新	400m		連尺	57"4
低400MR		大樹寺	59"3新			大樹寺	1'01"8新
走幅跳	前島 浩二	矢東	4m 90	走幅跳	吉田 幸代	連尺	4m 27
走高跳	藤原 幹治	矢南	1 m 45新	走高跳	水越 久乃	細川	1m 26
ボール投	大谷 素弘	三島	65m 60	ボール投	今泉 智子	矢東	49m 90

第20回岡崎市小学校陸上競技大会成績

愛知県岡崎総合運動場 10月25日

種目	1位	2位	3位	4位	5位	6位
男子総合	連尺	竜美丘	羽根	矢南	矢北	根石
女子総合	連尺	梅園	福岡	井田	緑丘	細川

こま 狛 犬



(所在地一岡崎市滝町滝山寺)

滝山寺の本坊に高さ七十センチほどの木造の狛犬がある。県下ではこれほど大きい木造の狛犬を他に見ることができない。室町時代の作といわれ、県指定文化財である。

狛犬は神社や仏寺などの門衛的な魔よけの置物である。象や獅子の像を宮門や仏寺などの前面において魔よけとする大陸の風習がわが国の王朝時代に伝わったものといわれる。狛犬には犬の一对、犬と獅子の一对、獅

子的一对などの区別がある。普通、むかつて右側が口を開いて呵音(最初)を表現し、左側は口を閉じて咩音(究極)を表現するといわれる。

滝山寺のこの狛犬は、もともとと本堂裏手にある日吉神社の社頭に置かれ風雨にさらされていた。痛みがひどく、数年前京都美術院で時間をかけて修理された。今は本坊に移され、鬼祭りの祖父面、祖母面、孫面とならんで保存されている。

・カット

葵中

大野 幾生

この本を

- わたしの生きがい論 梅棹 忠夫 1,100円
講談社
- 裏返しの肖像 石川 達三 1,100円
新潮社
- 本堂坊遺文 井上 靖 1,500円
新潮社
- 山本周五郎の世界 木村久邇典 1,500円
新評社
- マンボウ雑学記 北 杜夫 380円
岩波書店
- 読書の方法 外山滋比古 420円
講談社
- 吉田松陰 徳富 蘇峰 350円
岩波書店
- 日本語の生態 水谷 修 1,200円
創拓社
- 発達的人間論 津留 宏 1,500円
有斐閣
- 神々の流竄 梅原 猛 2,000円
集英社

お正月、さっぱり整理された職員室の机の上、春を呼ぶさくら草が、寒さに耐えながら春がやってくる。耐えることで暖かい春がやってくる。

書くことも考えることも、子どもとも一日一日を頑張らなくては。

気がむけばつける日記やさくら草
応人

注連縄に見送られて、息子や娘たちがスキーに出かけていく。

クリスマス、忘年会に続けてと、あきれ顔で静かになった部屋に座る。

「先生もオトシですから、お体を大切になさって、よいお年を……」

ナニッ。おれだって、まだお前たちには負けないぞ。今年もガンバルぞ!

シオア

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひします。日本人は季節の移り変わりを鋭敏に感じとり、花鳥風月をいつくしみながら一節一節の生活を楽しみ高めてきた。野菜も果物も時知らず手に入れる今、学校における節目は何か、自然と人間とのかわりから考えなおしてみたい。

すばらしい新年のスタート、期待と希望に胸はずむ。見るものすべて初々しく、厳肅な空気がみなぎる。

初詣の混雑、車の渋滞、事故・悲劇の報道、ふと、人間とは? 幸福とは? と考える。決意新たに、教師・父母として、一年の計、今年の抱負をまとめ、悔いのない一年としたいと思う。